

徳川家康にちなんだ5都市で開催されるロゲイニングシリーズ。江戸、日光、駿府、岡崎、浜松で実施。



家康が資質を見抜き、礎を築いたスーパーシティ東京。遙か彼方には静岡の象徴富士山も見える。

徳川家康没400周年

1616年、300年続いた徳川幕府の礎を気づいた徳川家康が没した。今年はその400周年に当たる。岡崎、浜松、静岡では、400周年記念行事が開催される。

JOAロゲイニング「大御所シリーズ」は、そんな家康の顕彰事業の協賛イベント（予定）として開催されるロゲイニングイベントである。2月1日に開催される有度山ロゲイニング大会（静岡）をプレイベントとして、5月3日に、家康生誕の地である岡崎でイベントがスタートする。その後、家康が出世の足がかりを作った浜松、言わずと知れた徳川幕府の首都東京、家康が祀られた日光、幼少時の人質として過ごし、隠居後に暮らした静岡と、家康縁の5都市で大会が開催される。

土木ヲタク家康

一般に家康はクスリ好き、健康オタクとして知られている。同時に、地形オタク・土木オタクとしての側面も見逃せない。

家康当時の安倍川はまだ駿府の市中を流れていた。山岳地からいっきに下る安倍川は駿府に恵の水とともに洪水を持たらしたことだろう。駿府城はその水流をうまく利用して作られているが、同時に洪水を防ぐために、家康は薩摩土手によって安倍川を西に移し、現在の静岡の市街地の礎を築いた。

また江戸に入るに当たっては、利根川を東遷させ、関東平野の下流の米作

の基盤を固め、東京の治水につなげている。そもそも、1590年当時は寒村に過ぎなかった江戸への転封に際しても、「まじかよ!？」と思いながらも応じたのは、水を管理することで穀物生産が期待できる低地と潜在力を秘める武蔵野台地、さらにその両者が接する江戸城の地形が、軍事的にも魅力的なものだと家康の目に映ったからではないか。

江戸は家康が見抜いた資質を开花させ、世界最大でありながらも清潔な都市として成長していく。自らの脚で地形を歩き回り人智の場をこの目で確かめるロゲイニングほど、家康の業績を顕彰するにふさわしいイベントはない。それが、家康縁の駿府で長年ロゲイニング大会を開催した紹介者の思いである。

各大会では家康に因んだポイントが用意されていることだろう。それは近世・近代日本の礎を築いた家康の新たな発見につながるかもしれない。オリエンテーリング愛好者、ロゲイニング好きはもちろん、歴史や地形萌えの人々にも楽しめるシリーズとなりそうである。さらに、上位の3大会では年間タイトル「大御所」を競う。女子のチャンピオンには「御台所（将軍の正室に対して用いられる敬称）」、ジュニアのチャンピオンには「竹千代（家康の幼名）」など、大御所シリーズにふさわしい表彰も用意されている。

あなたも大御所、御台所、竹千代を目指そう！

(村越 真)



水道橋は、もとはその名の通りの水道橋だった。家康に命じられて工事がスタートした神田上水が現在の水道橋付近で神田川を渡っており、明治中期ごろまでそこには懸樋の橋がかかっていた。現在でもそれを示すレリーフが水道橋のたもとに設置されている。



幼少期に家康である竹千代の銅像（静岡駅北口にある）



駿府公園にある家康壮年期の銅像。左手には鷹を伴っているが、鷹狩りと称して各地の地形を見て回ったとされている。